

## 「創立 30 周年記念式典」を令和 4 年 7 月に開催します (仔細は決まり次第お知らせします)

一般社団法人福島日仏協会は、2011 年(平成 23 年) 11 月 1 日法人化されましたがその前は任意団体で 1992 年(平成 4 年)7 月 10 日に発足して、今年 2022 年(令和 4 年)7 月に創立 30 周年を迎えます。この間、会員の皆様のご支援、ご協力を頂きながら節目の年を迎えることに感謝し、当協会は太田英晴四代目新理事長のもと、更なる発展、継続を期して取り組んで参ります。

折から未曾有の感染症対策に世界中の国々で取り組んでいる中、ロシア軍のウクライナ爆撃が始まり早い終息を願うばかりです。又、3 月 16 日の福島沖地震(6 強〜)で被害に遭われた会員様や関係者の方々にもお見舞いを申し上げます。

当協会の目的は、日仏両国の交流と、同じく会員相互の交流でその目的達成に必要な事業をすることです。お集り頂く事が何よりの交流となります。

記念式典には、セトン駐日大使御夫妻を招待したくスケジュール調整を伺い、7 月 26 日(火)を開催月日としました。その他会場、行程、催事などは今後運営委員会と理事会に諮って決定して参ります。とまり次第、会員の皆様にご案内します。その頃にはコロナ感染者数も落ち着いて以前の日常が戻っていると願っています。節目の式典が楽しく盛大に開催出来るように念じて、事前ながらご協力をお願い申し上げます。

節目の記念催事 いずれも大使、又は公使来賓でご招待  
 設立総会 1992 年 7 月 発足記念祝賀会 :福島市  
 5 周年記念 1997 年 7 月 ピアノリサイタル:福島市音楽堂  
 10 周年記念 2002 年 11 月 トランペット演奏 :福島市  
 15 周年記念 2007 年 10 月 御倉邸呈茶、琴演奏 :福島市  
 創立 19 年目 2011 年 7 月 仏革命記念日祝賀会 :郡山市  
 25 周年目 2017 年 11 月 大使県知事、市長面談、軽食歓迎会

## フランス語会話教室 新年度授業日程及び時間割 ノエミ・レキ講師 福島県林業会館 1F 会議室

前期: 15 cours				後期: 15 cours				講座	時間	受講料	
Avril 4月	9	16	23	Oct. 10月	1	15	22	29	初級 1	10:00~11:00	78,000 円
Mai 5月	14	21	28	Nov. 11月	12	19	26		上 級	11:00~12:00	90,000 円
Juin 6月	11	18		Déc. 12月	3	17			初級 2	12:00~13:20	78,000 円
Juillet 7月	2	9	23 30	Janvier 1月	14	21	28		入 門	14:00~15:00	78,000 円
Août 8月	27			Février 2月	11	18			中 級	15:00~16:20	78,000 円
Sept. 9月	3	17		Mars 3月	4	11			準上級	16:20~17:40	82,000 円

年 30 回 各月授業開催日は土曜日です。 ※4 回分納可 (中、高生 68,000 円)

## フランス料理を楽しむ会 月曜コース・水曜コース前期 4 回日程 確定分

会 場: 福島 MAX アオウゼ 4 階「調理実習室」 定 員: 各コース 8 名以内制限中です  
 時 間: 10:00~13:00 受講料: 前期 8,000 円(4 回分) 後期 8,000 円(4 回分)

コース	開催月日		講 師
月曜コース	第 1 回 5 月 9 日	第 2 回 6 月 6 日	第 1 回 2 回 中田 智之 (なか田 オーナーシェフ) 第 3 回 相良 栄二 (大玉ベース パティシエ)
	第 3 回 7 月 11 日	第 4 回 9 月 5 日	
水曜コース	第 1 回 5 月 11 日	第 2 回 6 月 8 日	第 1 回 2 回 3 回 4 回 菅野 喜代治 (ミュゼ・ドゥ・カナール オーナーシェフ)
	第 3 回 7 月 6 日	第 4 回 9 月 14 日	

## 私のフランス語日記 *Mon journal en français*

Deux ans ont déjà passé depuis le commencement de la propagation de la covid-19. Dans les circonstances où on ne peut ni diner avec des amis proches ni partir en voyage à cause du confinement volontaire qui dure si longtemps tel que ça, ce qui commence à se sentir un peu fatigué, ça ne serait peut-être pas que moi. Ça me fait très triste que je ne peux pas reconnaître le visage originelle même de mes collègues parce qu'ils portent toujours le masque. Parfois, on a envie de faire diversion. On a tendance à considérer le divertissement comme non nécessaire et non urgent dans la propagation de covid-19, mais je me sens sérieusement qu'il est aussi nécessaire que l'aliment pour que les hommes vivent.

Un de ce qui me défoule, c'est regarder des pièces de théâtre. Je participe à l'association de l'appréciation du théâtre de Fukushima depuis plus de trente ans, et je regarde toujours six pièces de théâtre par an. La pièce jouée par des acteurs en chair et en os devant mes yeux, ça me fait éprouver de l'émotion qui ne serait jamais causé par des programmes télévisés ou des films.

C'est 1960 que cette association a été fondé, l'année où je suis né. À ce moment-là, il est arrivé au Japon entier un mouvement de fonder des organisation pour regarder des pièces de théâtre de bonne qualité facilement et à bon prix, lancé par beaucoup de travailleurs qui ont voulu le réaliser. L'association de Fukushima s'est produite dans une telle tendance de l'époque.

Les membres peuvent regarder des six pièces par an en payant 2,400 yens par mois comme cotisation. C'est assez bon marché par rapport au frais environ 7,000~8,000 yens qui est nécessaire pour regarder une pièces à Tokio.

En outre, c'est les membres soi-même qui administrent l'association, par exemple, la rédaction du bulletin, l'arrangement de spectateurs dans la salle à la représentation, etc. Ça fait plaisir de communiquer avec plusieurs personnes différentes de lieu de travaille, de quartier, ou d'école. L'opportunité passionnante de s'entretenir avec les acteurs et les actrices en faisant un repas avec un verre après la représentation, c'est aussi disponible.

Quand je suis devenu membre de l'association, il y avait beaucoup de jeunes membres, donc, l'âge moyen était d'une vingtaine d'années ou d'une trentaine d'années. À certains égards, tout le monde a pris plaisir à s'occuper de l'administration de l'association, à aller faire du ski et du tennis, ou à voyager ensemble, plutôt qu'à regarder du théâtre. Quelque-uns de membres (en fait, moi aussi) se sont mariés l'un avec l'autre. Je ne me suis pas bien occupé des activités de l'association récemment, cependant je participe aux activités en peignant l'illustration de la couverture du bulletin une fois par an. Ce qui sont mis ici, ce sont une partie de celles.

Mais le nombre de membres qui avait établi un record plus de 3,400 à l'apogée en 1997, c'est tombé maintenant à environ 1,500. L'association est aussi face au problème de la vieillissement, donc, la tranche d'âge est devenue centrée sur plus de la soixantaine d'années. On n'y pourrait rien,

新型コロナの蔓延が始まってもう2年。こんなにも長く続く自粛生活のために、親しい仲間との会食も旅行もできずにいて、少々疲れを感じてきたのはきっと僕だけではないでしょう。いつもマスクを着用しているせいで、職場の素顔さえも分からなくなってきてしまったなんていうのは本当に悲しいことです。やはり時には息抜きが欲しくなるものです。コロナ蔓延の中、娯楽は不要不急なものとしてしまいがちですが、娯楽は人間が生きていく上で食べ物と同じくらい必要なものだということを痛感します。

僕にとって心を開放してくれるものの一つが演劇鑑賞です。福島演劇鑑賞会に30年以上会員として所属し、今年6本は芝居を見えています。目の前で生身の役者によって演じられる芝居は、テレビや映画では決して得られないような感動を与えてくれるのです。会が創設されたのは1960年。私の生まれた年です。当時は、低価格で手軽に上質の演劇を見られるようにしたいと考えた多くの勤労者によって始められた、そのための組織を立ち上げる運動が日本中で起きていました。福島演劇鑑賞会もそうした時代の流れの中で生まれたものです。

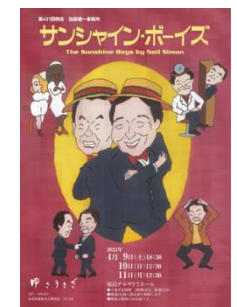


会員は月2,400円の会費で年6本の芝居が見られます。東京の劇場で見ると7~8,000円することを考えるとかなり安い。さらに、例えば機関誌の編集や公演当日の会場整理など、会の運営も会員が自ら行います。職場や地域、学校の異なる人たちと交流し合えるのがとても楽しいのです。また、芝居が終わった後、役者さんたちとお酒や食事を交えて交流する機会もあるのが魅力です。

自分が会員になった頃は、若い会員が多く、その平均年齢は20歳台~30歳台でした。ある意味では、皆、演劇よりもむしろ、会の運営に携わることや、みんなでスキーやテニス、旅行に行くことの方が楽しいという面もありました。会員同士で結婚する例もいくつかあって、実は僕自身もそうです。

最近あまり会の活動には関わっていませんが、それでも、年に1回ほど、会の機関誌の表紙のイラストなどを描くことで運営に参加しています。ここに掲載したイラストはそのうちの一部です。

しかし、最盛期の1997年には3,400人を越えた会員数も今は1,500人程度。会も高齢化問題に直面しており、年齢構成も60歳台以上が中心です。確かに、娯楽が多様化する中、仕方ない面もあります。でも、生身の人間によって演じられる芸術である芝居を見るという文化、



car le divertissement s'est diversifié, c'est vrai, mais je suis très inquiet que ne se perde la culture que l'on regarde une pièce de théâtre, l'art joué en chair et en os, de plus, la culture précieuse que les personnes diverses s'entretiennent d'une même œuvre et administrent une organisation ensemble.

L'association de l'appréciation du théâtre de Fukushima a célébré le 60e anniversaire il y a 2 ans. Je souhaite qu'elle continue d'exister toujours longtemps.

un élève du cours de conversation en français :

Chizuo Hayashi

またさらには、様々な立場の人が一つの同じ作品について語り合い、力を合わせて一つの組織を運営していくという貴重な文化が無くなってしまわないかというのがとても気がかりです。

福島演劇鑑賞会は、一昨年 60 周年記念を迎えました。これからもずっと長く続いてほしいと思っています。

(フランス語会話教室受講生 林 千鶴雄)

次回は、長谷川孝さんお願いします！

## 紅茶で癒しのひと時を！

皆さん、コロナ禍の毎日をいかがお過ごしでしょうか？私は母の介護をしながら趣味のお菓子作りを楽しみ、親しいお友達と大好きな紅茶を楽しんでいます。

思い起こせば、私が本格的に紅茶の魅力に引き込まれたのは、18年前、友人に誘われて行った、仙台の『ガネシュ』という紅茶専門店オーナー阿部耕也先生に出会ったことが始まりです。先生には、美味しい紅茶の淹れ方、テイ스팅等、色々なことを教えて頂きました。

皆さんは紅茶に『春茶』『夏茶』『秋茶』があることをご存知でしょうか？「紅茶は、季節によって香りも味も違う。春は緑茶に近いフレッシュな香り、夏はふくよかなイメージ、秋は穏やかな味、新茶はポットの中で時間が経っても苦くなりません。」これも阿部先生が教えてくださったことです。こうして私は、春、夏、秋、3シーズンの新茶の水色、香り、味わいの違いに驚くとともに美味しい紅茶の魅力のとりこになってしまったのです。

ところで、世界三大銘茶をご存知ですか？紅茶は、世界30か国以上で生産されています。それぞれの産地ごとに異なった個性を持っていますが、中でもインドのダージリン、スリランカのウバ、中国のキーマンは、紅茶の3要素である、味、水色、香りの条件を最もよく満たしているとされることから世界三大銘茶と呼ばれています。

私も、アフタヌーンティーの時には、マスカットフレーバーと呼ばれるフルーティーな香りのダージリンが好みます。また、モーニングティーには、タンニンが多く含まれ渋みが強くパンチのきいたアッサムのストレートティーが大好きで毎日の習慣となっています。

また、私が17年前滞在したシンガポールでは、リトルインドシアという地区があり、そこで飲んだチャイ(ミルクティー)は、日本円で150円程度でしたが、今も忘れないほどインパクトのある味でした。シンガポールで習った紅茶の中にグレープフルーツティーというものがあり、生で絞ったグレープフルーツを使った2層に分かれるアイスティーです。どちらもアッサムの茶葉を使って作りますが、今でも冬にはインド式のミルクティー、夏にはグレープフルーツのアイスティーが友人たちのお気に入りのアフタヌーンティーです。



チーズタルトと  
チャイミルクティ

自宅で友人と  
アフタヌーンティー  
を楽しむ

では、ここで阿部先生から教えて頂いたインド式チャイ(アッサムミルクティー)の淹れ方をご紹介します。

### インド式チャイ [美味しい淹れ方：4杯分]

《水：牛乳＝1：1》が基本です。

1. 鍋に水(400 cc)とアッサム茶葉(小さじ4杯)を入れて火にかけます。  
茶葉とお湯がしっかり馴染み水色全体が濃い茶色になるまでよく煮込んでください。
2. 水と茶葉をよく煮込んでから牛乳または豆乳(400 cc)を加えて更に煮込みます。
3. 細かな泡が鍋全体に立ち上がってきたら吹きこぼれる寸前で火を止めます。1分程度おいてから茶こしを使ってカップに注いでください。

■ミルクティーに適度な甘みを加えると味が一層引き立ちます。甜菜糖や黒糖がおすすめです。また、仕上げに生姜のしぼり汁やシナモン・ラム酒等を加えてお召し上がりいただくのもおすすめです。

『新茶の紅茶』®保証書引用

日本では、今緑茶、コーヒーなどは、一般的に愛飲されていると思いますが、もっと紅茶の香りや味の変化も普通に楽しめるようになって頂けたら、よりゆったりと心癒される至福の時間を過ごせるのではないかと思います。

最後に、阿部耕也先生直伝の『茶が新しいか・古いかを見分ける方法』をお伝えして私の手記を締めくくりたいと思います。

★お茶を淹れた時、茶葉を長く置いても苦くならない。  
⇒新しいお茶。

『茶』が『古く』なると⇒『古い』という漢字になる。

(料理教室受講生 野村良子)

## イースター島のモアイたち

### <はじめに>

イースター島は、南米チリから 3800 キロ、南回帰線下の洋上の島。オランダ人によって発見された日がちょうどイースター(復活祭)だったため、名付けられたとか。島の言葉では「ラパヌイ」といい、チリ領。面積 163.6 キロ(小豆島 152 キロ)、周囲 60 キロのこの島を有名にしているのが、モアイと呼ばれる巨石群像である。

「モアイは人の住まない南の孤島で、ひっそりと歴史の風にさらされている」と、自分勝手にロマンをふくらませていたが、大きな間違いだった。島にはいくつかのホテルがあり、学校・病院・郵便局他と生活に必要な施設はそろっていた。人口は5千人(2014年当時)、しかも日本人男性ガイドがおり、彼のパートナー(日本人女性)はホテルのマネージャーだという。なんと自分の認識不足!



チリから西へ 3800 キロ イースター島 島に唯一目が入っているモアイ像

### <モアイ像>

石像は、製作途中のものも含めて、千体余あるという。立像は島の海岸に集中しており、ほぼ島全周にモアイは立つ。高さは4メートルから、大きいものでは20メートル超、全て男性像の腰から上部である。単独のものもあれば、数体並んで立つものもある。眼のあるもの、帽子のようなものを頭に乘せているもの、めずらしいものでは、正座をしているものもある。

それら石像は全て海を背に立っている。しかし唯一、島の西部にある7体のモアイだけは、海に向かって立つ。遠い昔、祖先が漕ぎ渡ってきたかもしれない潮路を見つめているかのように。日暮れ時、私たちは7体のモアイと共に、海に沈む夕陽を眺めることになる。



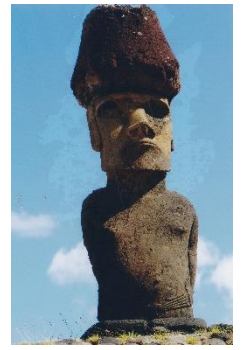
7体のモアイ像 海に向かって立つ



全て男性像



15体のモアイ



赤色帽子?の像

チリ沖地震で倒壊し日本企業が復元に協力した。

### <モアイと日本とのかかわり>

島の東部にある、海を背に立つ15体のモアイは、1960年のチリ沖地震による津波で倒壊。石像はバラバラに破壊され、散乱したまま、放置されていたという。

1991年から95年に、日本企業がクレーン車を提供し、技術者を派遣して、修復・復元に協力した。難工事だったという。まず、クレーン車を陸上げする港がない。島北部のビーチから、クレーン車を上陸させたという。パズルのように砕けた、4メートルを超える石像を、組み合わせ、組み立て、クレーンを使って基壇の上に乗せる作業が最も神経を使ったという。この事業を伝える銘板がモアイの傍にある。

### <モアイの頭の上にあるのは?>

石像の胴体部の石とは明らかに異なる、赤色の石が頭部にのせられている。帽子のようにも見えるが、「髻<sup>まげ</sup>」ではないかという説もある。

後日、島で出会ったおじさんの頭を見た時、「あれはマゲだ!」と確信した。

### <モアイ製作場>

島には高い山も、森もない。緑の丘がゆるやかに続いている。その丘のひとつに石切場があり、ここが“モアイ製作現場”。ここを見ると、モアイの製作過程がよくわかる。切り出し途中のもの、頭部だけのもの、半ば埋もれているものなど、至るところに相当数ある。完成したモアイをどのようにして、海岸まで運んだのか。なぜ、なんのために造られたのか。あるいは、なぜ放棄したのか。造った人たちはどこへ行ったのか。この謎が、今も人を魅きつける。

### <最後に>

先の、トンガ海底火山噴火による津波の影響はなかっただろうか。

モアイたちは、今も、南の海の風に吹かれ、静かに島を守っているだろうか。

中脇ゆき子(会員)